

○プロジェクト研究1656-3

研究課題

「地域での高度実践力拡大を目指した大学院看護学専攻(修士)のカリキュラム開発」

○研究代表者 看護学科教授 加納 尚美
○研究分担者 看護学科教授 市村 久美子 看護学科教授 松田 たみ子
看護学科教授 山口 忍 看護学科教授 藤岡 寛
看護学科教授 吉良 淳子 看護学科教授 中村 博文
放射線技術科学科教授 大学院保健医療科学研究科長 阿部 慎司
助産学専攻科教授 島田 智織
看護学科准教授 富田 美加 看護学科准教授 糸嶺一郎
看護学科准教授 本村 美和 看護学科准教授 高村祐子
看護学科准助教 中村摩紀

○研究年度 平成30年度

(研究期間) 平成28年度～平成30年度(3年間)

1. 研究目的

地域に根ざした将来の看護のリーダーを養成する上でも実践力を拡大する魅力あるカリキュラムを開発することが求められる。より魅力ある看護学専攻となるように、地域での高度実践力拡大を目指した大学院看護学専攻(修士)のカリキュラム開発を行うことを本研究の目的とする。

2. 研究方法

<調査1>

目的:より魅力ある看護学専攻となるように、本大学院看護学専攻(修士)への要望と進学への意識調査を行い、本学がおかれている現状を理解し、今後の魅力ある大学院教育の改革に活かす。

方法:卒業生および臨床・臨地の実践家へのアンケートの実施。

調査内容:年齢・性別・職種などの医療職としての個人的情報、大学院に進学したいかどうか、また、何に期待するのかなど、大学院進学についての問題、サポートについてなどを含めた内容の調査用紙を作成し、倫理委員会には2016年度に承認されており、2017年度には卒業生への調査を実施、臨床家には2018年12月に実施した。

<調査2>

目的:国内外におけるモデルとなる大学および関連施設にて、地域を大学院カリキュラムについて情報収集及び面接調査を行う。

方法:研究協力者としては、実践家(CNS他)、管理者、モデルとなる他大学の教員、モデルとなるカリキュラム開発を行っている大学および教員等とする。

3. 結果および考察

<調査1>

卒業生への調査:2017年度に調査をし、報告している。

臨地・臨床の実践家への調査:

茨城県内の機関病院から本学学生の就職率の高い2施設に調査を依頼し、了解を得られ留め置き方式にて実施した。730のアンケートを配布し、554名から回答を得た。回収率は75.9%であった。回答者の年代は、20歳代が43.7%、30歳代が31%、40歳代が18.8%であり、全体の93.5%を占めていた。女性が88.1%、男性が10.1%で、内管理職者が8%を占めていた。職種別では、看護師が96.9%、保健師が0.9%、助産師が2.2%であった。

「進学したい」、「関心はある」のある者は46.2%を占めていた。「興味のある大学院」については医療と上げる者が最も多く62.5%であった。大学院を希望する領域としては幅広くあげられていた。最も多いのが「成人」で18.4%、次に「がん」が15%、「老年」13.2%、在宅、小児看護、精神、管理、基礎、母性、地域、その他の順であった。「進学する時の問題」としては、経済的理由が43.2%、両立困難が21.3%であり、望まれる「サポート」として、授業料免除・奨学金が23.7%、体験学習への支援が13.3%、サテライトが12.5%であった。これらの結果から、大学院への潜在的ニーズは十分にあることがわかった。今後の課題としては、大学院のインセンティブを見えやすくすること、大学院を経ることの将来像を具体的にイメージアップすること、サテライト等を含め、臨床現場に外向くような大学のアクティブさが求められていた。

<調査2>

国内関係者への情報収集の継続と関係作り

- ・専門看護師修了生への聞き取り調査:県内で活躍しているCNSに現状と課題について意見をいただいた。
- ・茨城県内の保健衛生動向、近県のCNSおよび大学院のカリキュラムの比較検討、入学生状況等について情報収集を行い、SWOT分析を行った。

・高度看護実践の内容の検討

① 佐久大学学長およびNP担当者による講演会、本学(10月)

2018年度より大学院にて診療看護師(NP)コースを設置した経緯と理由、カリキュラムの内容、運営状況について伺った。特に学長は本学CNSコー(老年看護)設置および養成経験もあり、それらも踏まえて意見交換を行った。

② 大分県立科学看護科学大学への視察(2月):NPコースを立ち上げ10年の実績を持つ大学学長および担当者に会い、設置の経緯および運営、修了生の活躍について情報を得た。

③ 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 精神看護学教授による講演会、本学(2月)

2019年4月より開講になるCNSコースについて説明をいただく。修士から博士一貫で、実践力と研究力を併せ持つ人材養成を掲げた内容とする予定。

④ 今後の予定:大学院にてCNSとNP、研究者コースと複数開講している北海道医療大学への視察、アメリカ合衆国で大学院教育を受け、NPの経験のある研究者の講演会(本学)での企画予定。

カリキュラム試案作業

これまでの調査結果および情報収集を総合して、カリキュラム試案カリキュラムポリシー、修士課程における学生のコンピテンシーを再考し、複数のモデル案を作成した。今後、学内外からの具体的な検討の資料とし、魅力ある大学院カリキュラム構築に寄与したいと考える。

4. 成果の発表

<論文発表>

中村博文, 糸嶺一郎, 藤岡寛, 加納尚美: イリノイ州立大学大学院における高度実践看護学教育の実際
—本学大学院看護学専攻の課題と展望—茨城県立医療大学紀要 第24巻 p.111-118, 2019